

## 56 「インコの赤ちゃん誕生」

4月に家族の仲間入りしたセキセイインコが6月に卵を産んだ。巣を覗いて見たら6、7個あった。メスは巣に入りきりですずっと温めていたが、結局卵は孵らなかった。

それから約半年経った11月16日再び卵を産んだ。

インコの産卵は春と秋ということだったので、これから寒くなるというこの時期になぜ？という感じだった。でもインコは実際には家の中に住んでいるのだから、季節はあまり関係ないのかもしれない。前回の卵はだめだったので、今回も多分孵らないだろうとあまり期待していなかった。

12月に入り急に気温が下がり、夜は特に寒くなるのでヒナが孵るのはとても無理だろうと思っていたのである。

12月5日から4日間の予定で能登・若狭方面の旅行に出掛けた。能登半島を一周し若狭方面に向かう12月7日、車中に妻から電話があった。一瞬嫌な予感がしたが、何と！インコのヒナが生まれたという連絡だった。朝起きたらヒナの鳴き声でわかったようだ。

インコの面倒はもっぱら私が見ていたので、妻はどうしてよいか分らず慌てている。私もヒナのことは全く分らなかったで、とにかくペットショップに訊くように伝えた。明日の夜には家に帰るので、それまで無事に生きていてくれることを願った。

私の小さい頃、父がたくさんの小鳥を飼っていた。鳥小屋まであり何種類もの小鳥がいた。その時の記憶では、生まれて間もなく水に浸して軟らかくした餌をヘラで口移しに与えていたように思う。

しかし妻が訊いたところでは、何もしなくとも親鳥が自分で餌を与えて育てるから放っておけばよいとのこと。鳥の種類によって育て方は違うのだろうが、どうせ自分にはわからないから自然に任せることにした。初めのころはヒナの鳴き声が聞こえないと心配になった。母親は頻繁に巣に入りヒナに餌を与えている。

その度に餌をねだる鳴き声をするのが可愛い。

巣の中を覗くとヒナは2匹だった。まだ僅かに羽が生えているだけで弱々しい。

心配なのは夜になると部屋の温度がとても下がるので、体温調節のできないヒナが死なないだろうかということだ。昼間日当たりの良い部屋であれば夜になっても少しは違おうだろうと思いつているが、曇



子に何か話しているような父親



一匹が初めて巣の外に出て来た

りの日もあるので大丈夫だろうか？

こんな状態で2週間ほど過ぎた。不安をよそに元気にヒナは育ち、鳴き声も日に日に大きくなってきた。

初めは親に対して半信半疑だったが、きちんと育てている。子を育てる能力は、本能としてきちんと備わっているのだ。セキセイインコは結構逞しい。

最初は弱々しかったヒナも毛がすっかり生えそろう、だいぶ大きくなっている。もうここまで来れば大丈夫だろう。

年が明けた1月2日、生まれて17日目にして2匹のうちの1匹が巣の外に出てきた。餌箱の傍まで

来たが、自分で餌を食べることはできないようだ。

飛べるようになるのはいつ頃なのだろう？

それにしても2週間と少しで、もう巣立ちするには驚く。家の中の小さな鳥かごの中でヒナが生まれ育ったことに感動を覚える。

今これを書いている1メートル横で、もう随分大きくなったヒナが巣箱から可愛い顔を出している。そろそろ自力で餌を食べられるのではと思うがまだのようだ。

親がエサをくれるうちは自分からは食べないのかも知れない。母親は始終餌箱に顔を突っ込み、ヒナに頻繁に餌を口移しで与えている。時々、父親が巣箱の穴に顔を寄せ、ヒナに何か話しているようなしぐさをするのは何だろう？インコも父親、母親できちんと役割分担してヒナの世話をしているように思えて微笑ましい。ここ数日間、とてもインコに楽しませてもらっている。

どんなに小さな動物でも子が生まれるのは楽しいし感動する。(2014年1月4日)



1月14日現在、もう親子がわからないくらい大きくなった  
(左から、母親・子供・子供・父親)